2015年は国体

活躍に期待の4人

2015年は「紀の国わかやま国体」と「紀の国わかやま大会」（全国障害者スポーツ大会）が開かれる年。和歌山のスポーツ界にとっては記念すべき年で、盛り上がりが期待される。両大会への出場に向け努力をする選手、新たなステージに進む選手が紀南にいる。飛躍の年を迎えるホープ4人を紹介する。

中　陽一
森　義純

新たなステージでの新生活も

地元離れ 目標へ一歩

サッカー

上富田中3年　**藤本 諒哉 君（15）**

「打たせるな！」「ラインを上げろっ」

和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場であった、Jリーグチーム「セレッソ大阪」の下部組織の練習。ひときわ大きな声が競技場に響いた。

ピッチで一番後ろにいるGKにとって、声の大きさ、出し方は大切な能力の一つだ。「自分でも自信がある所」という。

味方への的確な指示は勝利につながる。チームの清水和男監督（39）は「信頼しているからこそ、チームメートは（藤本君の）指示を聞く。人間的にもしっかりしているのが彼の魅力」と話す。

プレーでも目立つ存在だった。中学入学の直前には、国内で最も高いレベルのナショナルトレセン中日本のメンバーに選ばれた。2014年夏には、Jリーグ選抜の一員としてブラジル遠征にも参加している。

そんな活躍が買われたこともあり、今春、大阪桐蔭高校（大阪府大東市）に進学することを決めた。Jリーガーも輩出する強豪校だ。進学校としても知られるが、もちろん勉強も手を抜くつもりはない。

「地元を離れる不安はあるけれど、新しい仲間との生活や競争が始まることは楽しみでもある」。プロサッカー選手になるという目標に向け、新たな一歩を踏み出す。

GKを始めたのは、地元の上富田FCに所属していた小学4年の時。1チームに一つだけの、責任あるポジションに魅力を感じた。

「フォワードは1本でも決めたら合格やけど、キーパーは相手のシュートを1本でも決められたらあかんで」。6年生の時の公式戦前日、自身もGKだった父親の政良さん（38）から掛けられた言葉は、今も大切にしている。小学5年の時から付けているサッカーノートを見返すこともある。試合でできたこと、できなかったこと。感じたことを記している。

来春に大阪の強豪校へ進学する藤本諒哉君（和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場で）

目標は東京五輪出場

体操

田辺工業3年　**楠川 雄太 君（18）**

今春、東京の順天堂大学へ進学する。

ユニア体操クラブに入った。田辺市の明洋中学校では全国大会で入賞するなどトップクラスの実力をつけたが、中学3年生の時に足首を骨折する大けがをした。田辺工業高校に入学後も練習できない日々が続き、やめようかと思ったときもあったという。

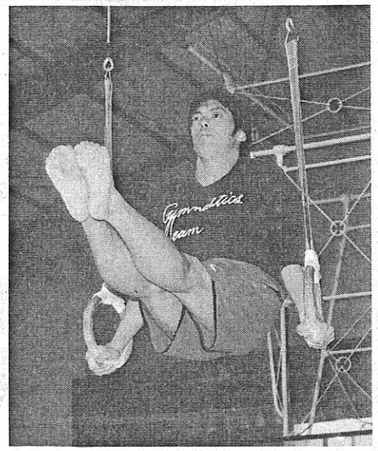
転機となったのは、田辺工業の体操部監督、柴田達也教諭から「つり輪で日本一を目指してみないか」と励まされたこと。諦めずにこつこつと練習に取り組んだ結果、全国高校総体（インターハイ）男子種目別のつり輪で2年連続3位の成績を残した。また、昨年の長崎国体少年男子の部で県選抜チームの7位入賞に貢献した。

春からは世界を目指した新しい生活が始まる。

練習の疲労を残さないようにマッサージを施し、小学校時代からクラブへの送迎をするなど支えてきた父親の雄平さん（45）は「大学はトップレベルの選手が集まる。もまれてさらに成長してほしい」。柴田教諭も「練習は人の何倍もするほど熱心で努力の塊。大きなけががあったから強くなった。世界を狙えるように大学でも頑張ってほしい」とエールを送る。

楠川君は「先生や両親や仲間の支えがあったから続けられた。体操は人生そのもの。頑張ることの大切さ、仲間との協力、礼儀など、いろんなことを教わり人としても鍛えられた」と話す。

数々の全国大会を経験し、同世代の国内トップクラスの選手と戦ってきた自信もある。2020年の東京五輪。出場は「夢」ではなく、「目標」という。



東京五輪出場を目指す楠川雄太君（田辺市目良で）

大けが乗り越え 国体へ

ソフトボール

熊野高校2年　**仲 美咲 さん（17）**

3年生が引退してから、熊野高校（上富田町朝来）女子ソフトボール部の新しい主将を任された。守備の要、遊撃手を務める大黒柱だ。

紀の国わかやま国体に向けた県選抜チームに、熊野から唯一入っている選手でもある。現時点ではあくまでも候補だが「自分が高校3年生の時に、和歌山で国体が開かれるというのはすごい機会だと思うようになってきた。なんとか選ばれるように頑張りたい」と話す。

これまでの高校生活は、けがに悩まされた時間が多かった。1年の6月、右ひざの靱帯（じんたい）を損傷した。「1年くらいは思い切ったプレーはできない」と医師に言われた。リハビリに取り組み、ようやく試合に出られるようになったころ、今度は左足首を捻挫。病院に直行した。

「せっかくプレーできるようになったのに」。車内で泣いた。その年のブラジルで開かれた知的障害者の世界大会に出場して女子500㍍で4位、3000㍍で6位、1500㍍で7位と3種目で入賞した。翌年、大分県での全国障害者スポーツ大会で1500㍍と800㍍で3位。パラリンピック出場も目指していたが、わずかに出場タイムに届かず、それ以降はレースから遠ざかっていた。

30歳を越え、15年に和歌山県で開かれる障害者スポーツ大会に地元選手として出場しようと家族で話し合い、本格的に練習を開始。昨年あった長崎での同大会で過去最高の成績を収め、本番へ大きな弾みとなった。後援会も計画されており、「全国障害者スポーツ大会は地元和歌山の開催で、ぜひ県代表で出て優勝し、有終の美を飾りたい」と意欲をみせている。

娘の成長ぶりを見守ってきた正勝さんは「和歌山で開かれる障害者スポーツ大会が彼女の集大成となる。トレーニングで1秒でもタイムを縮めて出場を決め、和歌山のために頑張ってほしい」と話している。

全国障害者スポーツ大会で連覇を目指す橋本有貴さん（田辺市上の山1丁目の田辺スポーツパークで）

けがを乗り越えてソフトボールに打ち込む仲美咲さん（上富田町朝来の熊野高校で）

優勝して有終の美飾る

全国障害者スポーツ大会 陸上競技

田辺　**橋本 有貴 さん（32）**

「全国障害者スポーツ大会」の陸上競技知的障害青年の部女子1500㍍で連覇を目指し、新春からトレーニングに励む。

昨年11月、長崎県であった全国障害者スポーツ大会で1500㍍優勝、800㍍でも3位に入賞した。「今年も県予選で結果を出し、県代表選手に選ばれるように頑張る」と抱負を語る。

走るのが好きで、小学校のころから市民ランナーだった父親の正勝さん（60）と練習に取り組んできた。

1999年、はまゆう特別支援学校（上富田町）高等部3年生の時、全日本知的障害者陸上競技選手権大会の女子3000㍍で3位に入った。卒業後も競技を続け、仕事と両立させながらトレーニングに励んだ。

2007年には同選手権大会の3000㍍で2位、15